

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度第2回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和6年5月23日(木) 午後6時から午後8時11分		
開催場所		本庁舎第二別館3階 第三委員会室		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	17人(こども・若者政策課長ほか16人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	5人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会  2 議 題 (1)「(仮称)次期相模原市子ども応援プラン」について (2)「(仮称)相模原市子育て世代応援条例」について  3 その他 令和6年4月1日現在の保育所待機児童数について  4 閉 会		

## 議 事 の 要 旨

## 1 開 会

## 2 議題

## (1) 「(仮称) 次期相模原市子ども応援プラン」について

「(仮称) 次期相模原市子ども応援プラン」について事務局から説明した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(後藤委員) 資料1-1、基本方針(案)Ⅲについて、〇〇を支えていくという文章の前に「ともに」などの文言を入れると親しみやすい表現になると思う。

(野口委員) 資料1-1、次期計画の基本目標8「安心して～」の取組の方向について、現行計画では「災害」という文言が入っており次期計画では抜けているが、意図はあるのか。

(事務局) 意図的に抜いた認識はない。「取組の方向」は、こういった事業が連なることを例示したものである。資料の表現が、そのまま計画に採用されるとは限らない。

(石井委員) 私も、前回の会議で基本理念(案)に「ともに」という言葉を入れてはどうかという意見を言ったが、意図が伝わっていないと感じた。子どもだけではなく、「大人もともに育つ」というニュアンスを入れたいという意味だった。また、「笑顔」が入ったのはいいが、「笑顔を守る」という言葉で入れたいという思いであった。

(事務局) 基本理念(案)における「ともに」という表現について。事務局で検討する中で、大人や親も育つという表現があってもいいという議論があった上で、この表現になっている。

(田川委員) 基本理念(案)について自分の子どもに話してみたところ、前回の案に対しては「私は輝いていない」と、まさに委員からご意見があったとおりの反応があったが、今回示された基本理念(案)には「いいね」と言ってもらい、子どもにも伝わったと感じた。

(増田委員) 基本方針(案)について2点意見がある。1点目は、先ほど野口委員が発言した内容である「災害」を文言から除いた部分について、今後、地震等の災害が起こる可能性が非常に高く、通学路が本当に安全なのかということを見直すことを考えると、この部分に「災害」という文言を残した方がいいのではないかと。2点目には、基本目標4「若者の希望する未来へ～」の取組の方向として、「結婚の希望を叶えられるよう支援する」とあるが、結婚を望まなくても出産・子育てを望む等、様々な考え方がある中では、結婚のみにフォーカスを当てるのではな

く、出産・子育て等も含めて叶えられるよう支援するという文言にしてみてもいかがか。

(朝比奈委員) 基本理念(案)の文言が長いという印象を受けた。また、基本理念(案)、基本方針(案)ともに「輝く」という言葉を多用して強調されると、引っ掛かるなという印象である。また、次期計画の基本目標6の取組の方向に記載されている「男性・女性」という言葉は、意図的に強調していると読み手に感じさせてしまったり、不快に思う人がいるかもしれない。配慮すべきではないか。一方で、基本方針の表現が「〇〇づくり」だったのが「支えていく」という表現になっているのは、わかりやすく良いと思う。

(事務局)「輝く」という言葉は基本理念の中でキーワードとしているため、多用している部分がある。ただ、全体でのバランスを見た中で検討の余地はある。また、「男性・女性」という表現について、家事負担の偏りが子育てのマイナスイメージを生むきっかけになっており、男女ともに関わることが求められている社会情勢等から、使用している。

(園田副会長)今、アンケート等で性別を問う欄では「男性」「女性」「その他」という選択肢が用意される。社会全体がそういった動きをしている中で、男性、女性と性別を特定して表現するのは望ましくないという意図の朝比奈委員のご意見はないか。

(事務局)事務局で検討する中でも、同様の議論があった。LGBTQの方への配慮は当然必要ではあるが、この問題を論じる際に性別なしで論じることは難しいと考え、お示しした表現となった。

(園田副会長)「男性・女性」とわざわざ強調するということは、生物学的に持って生まれた性にこだわっているように捉えられてしまう。日本の昔からの文化的な性別役割意識の話と性差別の話は別の次元の話だと思うが、委員の皆さんはどう思うか。

(朝比奈委員)園田委員の意見に同意する。基本理念(案)で「ひとりひとりの」という言葉を使って、それぞれ違って良いということを強調しているにも関わらず、ここであえて「男性・女性」と強調することで例えば「男性は家事をしない」といった決めつけをしているようで、とても違和感を感じる。

(事務局)表現の問題であると思うので、配慮した形の表現を検討する。

(馬場委員)基本目標7について、子育てを支援する側のスキルを上げるべく、研修等の内容を盛り込むべきではないか。支援する側が今の子育てを学ばなければ、保護者や子どもに関わることが難しい。

(事務局)取組の方向としてお示ししている部分は、紐づく事業のすべてを表現しているわけではない。「地域で子育てを応援し、支える機運を高める」という表現

の中に、学習機会の充実も含めている。

(馬場委員) もっとストレートに表現した方が分かりやすい。

(片山会長) 取組の方向として示している部分は、今日の意見を基に今後変更の余地はあるのか。

(事務局) 今回取組の方向として示しているのは、それぞれの基本目標にどんな事業が紐づくのか、分かりやすく示すために記載しているため、必ずしもこの表現が計画にそのまま反映するとは考えていない。

(片山会長) 基本方針Ⅲの最後の段落について、子育てだけではなく「子育て」という表現で、石井委員から意見があった「子育てする側も育つ」ということが表されていると感じた。「包括的な切れ目のない支援」や「仕組みを築き」というふうな文言もあるとよい。

(事務局) 表現の仕方を含め、今後検討する。

(川井委員) 先ほどご意見のあった「男性・女性」の表現はやはり気になった。今後5年間のプランを作るにあたって、時代に合わないと感じる。また、基本理念(案)の考え方の中で、「子ども・若者」と表記してあるが、「若者」が入っていない部分もある。

(事務局) 文脈として「若者」を入れるのが適切なのかどうか悩む部分もある。引き続き検討していきたい。

(片山会長) 一般市民の感覚で見ると、すんなり理解しづらい部分もある。若者も取りこぼさないということを表現するような工夫があると良い。

(川井委員) 子どもたちがこのプランに触れる機会があったら良いと考える。基本理念をイラスト化すると子どもたちも理解しやすいのではないか。

(安西委員) 基本理念(案)はどちらかというとポジティブに捉えており、輝く未来に向かっていく感じがいいと感じた。また、基本方針なども表現が変わって分かりやすくなっている。その先に何をやってくれるのか?と子どもに質問されたときにしっかりと説明できるようにしていきたい。

(三浦委員) 基本理念が分かりやすくなり、良いと感じている。

(後藤委員) 「男性・女性を問わず」という表現について、色々ご意見があったが、当たり前のことを当たり前と言える社会であることが大事だと考えている。様々な方に配慮しなければならないというのもわかるが、一般市民の立場としては、男性と女性、父親と母親がいて子どもがいるという大前提のことは、子どもに伝えていきたい。

(片山会長) 公募委員であるからこそのご意見だと思う。引き続き、率直な意見を聞かせていただきたい。

(園田副会長) 取組の方向の表現のうち、子どもの権利の表現がかなり変わってい

る。現行計画は具体的に児童虐待予防とか、いじめとか不登校児童などの具体的に記述されていたが、今回は包括的な表現になっている。包括的な表現では市民の方に伝わりにくいため、計画書で具体的な施策を書くときに明確に分かるようにした方がよい。

(事務局) 本日提示した取組の方向は、例示として示させていただいているので、ここに書かれたことがそのまま計画に反映されるというものではない。本日いただいた意見も含めて、計画への書き方について検討する。

(片山会長) 本日決定することとしている基本理念「ひとりひとりの笑顔輝く未来に向かって 子ども・若者がみんなと育つ さがみはら」について色々と意見をいただいたが、この案で確定として問題ないか。

(全委員) 異議なし

## (2) 「(仮称) 相模原市子育て世代応援条例」について

「(仮称) 相模原市子育て世代応援条例」の文案について、事務局から説明した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(野口委員) 「エールを送ろう」と言うのがあまりピンとこない。「応援条例」ではだめなのか。

(安西委員) 学び・育ちの施設関係者として児童クラブが入っていないのは非常に歯がゆい気持ちになった。

(事務局) 「学び・育ちの施設」の中に児童クラブも含むと解釈している。

(石井委員) 私は地域で活動しているが、施設を持っているわけではない。施設を持たずに活動をしている人や団体にとっては、自分たちがどこに入るのかが分からない。ぜひとも表現していただきたい。

(片山会長) 地域活動している方たちも当然含まれていることは理解できるが、表現できないのか、検討いただきたい。

(園田副会長) 「役割・責務」との表記があるが、市の役割は義務、それ以外は努力義務という認識で良いか。また、市の責務の第1項と第2項の書き分けは何かあるのか。

(事務局) 前半はご認識のとおり。第1項はプランなどをつくり、各課で施策を行うことを示す。第2項は地域で行われている事業などを支援するという意図である。

(片山会長) 「一丸となって」という表現が2か所ある。強調する意図があるとは思いますが違和感がある。「一致協力して」という言葉でもいいのではないか。

(事務局) 「一丸」という表現は、強調するために意図的に使っている表現であるが、表現は検討する。

(片山会長) 古めかしい言葉という印象がある。

(安西委員) 学童を運営している中では、学校との連携が必要不可欠な要素だと考えている。この条例の「一丸」という表現では、市も当然そう考えていると認識して良いか。

(事務局) 連携を強化して一緒にやっていくべきだということは、施設によって変わるものではないと考えている。

(川井委員) 子育て世代へのエールとして上手に活用されるのであれば良いが、条例で定めている「連携」を盾に小学校から子どもの情報を求められた際に、すべて提供しなければならなくなることを懸念している。万が一個人情報情報が漏れてしまった時に、責任の所在が分からなくなる恐れがある。

(事務局) 運用の仕方が重要であると考えている。ただ、この条例は法的義務を発生させたり、ペナルティを負わせること等は想定していない。

(片山会長) 本条例についての意見は本日で締め切り、本日の内容を含めて次回答申とする予定だが、何か意見はあるか。

(石井委員) 子育て世代を応援する条例を作るのはいいのだが、「若者が結婚・子育ての希望をかなえることができ」とあるが個人の自由であり、目的に入れることに違和感がある。

(片山会長) 少子化対策については社会全体で考える必要があり、各委員がそれぞれの立場でどう取り組んだ方が良いかなど意見をお出しいただき、今後の応援プランにも反映していきたい。

(事務局) 相模原市の少子化の実態について分析している中で、結婚された方は大体子どもを持たれる方が多いという傾向がある。そういう意味では、まず、結婚するところの一つクリアされると。子どもが生み育てられるというところにすごく大きく繋がっていくところなので、重要視していきたいと考えているところである。

(園田副会長) 議題1の議論をした上で、この条例が子育て世代にターゲットを絞ることについて違和感があるのだろうと考える。

(朝比奈委員) 「若者の結婚・子育ての希望を叶える」とあるが、将来に希望を持っていないから結婚や子育てに繋がらないというのが根本的な問題ではないかという感想を持った。

### 3 その他

令和6年4月1日現在の保育所等待機児童数について

令和6年4月1日現在の保育所等待機児童数について、事務局から説明した。  
委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(園田副会長) 企業主導型の保育所について、保育所が撤退する時など、市はどこまで関与しているのか。

(事務局) 財政的な支援は内閣府が行っている。市としては巡回訪問、アドバイス等保育現場での支援をしている。今後の在り方として、市が保育所の設置をコントロールできるものではないと考えている。企業主導型をあえて選んでいる保護者もいるため、企業と保護者のニーズで施設の増減が変わってくる。

(園田副会長) 世田谷区では施設が撤退し、子どもが放り出された事例がある。その際は内閣府ではなく世田谷区が子どもの振り分け等の対応していた。市として関与できる部分は少ないが、今後に備えてシミュレーションしておいた方が良いと考える。

(片山会長) 認可保育所等の推移のところで地域型保育事業の施設数が41から40と1減している。理由は何か。

(事務局) 家庭的保育事業が減った。経営が厳しかったとのこと。

(片山会長) 1減により子どもたちに何か問題は生じ対応はしたのか。

(事務局) 他の園に移っていただくことで対応した。

#### 4 閉 会

以 上

## 相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
あさひな たろう 朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
あんざい しゅんいち 安 西 俊 一	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
いしい やすこ 石 井 康 子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
おしだ ゆうすけ 押 田 裕 輔	公募市民	欠 席
かたやま ともこ ◎ 片 山 知 子	和泉短期大学児童福祉学科 特命教授	出 席
かわい たけひこ 川 井 赴 彦	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
ごとう りょう 後 藤 亮	公募市民	出 席
ささみね ゆか 笹 嶺 由 香	相模原市立小学校長会	欠 席
そのだ いわお ○ 園 田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出 席
たがわ つぐよ 田 川 継 世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
のぐち かずよ 野 口 和 代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
ば ば まゆみ 馬 場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
ふ せ あきよし 布 施 昭 愛	相模原商工会議所	欠 席
ますだ たかのり 増 田 貴 範	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	出 席
みうら ともりのり 三 浦 友 則	相模原保育室連絡協議会	出 席

◎ 会長 ○ 副会長